

令和3年7月5日

「スポーツ文化ツーリズムアワード2021」の公募を開始します ～スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定による 「スポーツ文化ツーリズム」を推進します～

スポーツ庁及び文化庁は、スポーツ文化ツーリズムの推進に寄与する先進的な取組や今後スポーツ文化ツーリズムの実現を目指す取組の発掘のため、昨年に引き続き、観光庁と共同で7月5日より、「スポーツ文化ツーリズムアワード2021」の公募を開始します。取組の公募を行った後、有識者等の意見を踏まえ、優秀な取組を選定・表彰いたします。（同時発表：観光庁）

スポーツ庁、文化庁及び観光庁では、スポーツや文化芸術資源の融合により、新しい地域ブランドや日本ブランドを創出し、観光振興・地域振興を推進することを目的として連携を図り、「スポーツ文化ツーリズム」を推進しています。

応募のあった取組やイベントの中から「スポーツ文化ツーリズム賞」「スポーツツーリズム賞」「文化ツーリズム賞」の3つの賞を、「スポーツ文化ツーリズムアワード2021」として選定・表彰します。

また、「新しい観光」として、コロナ禍ならではの工夫・アイデアが盛り込まれた新たな取組や、昨年同様、スポーツ庁が推進する武道ツーリズム、文化庁が推進する日本遺産や食文化に関し、特に優秀な取組があった場合は「特別賞」として選定・表彰します。

【スポーツ文化ツーリズムアワード2021 公募要領】

1. 賞の構成

本アワードは、次の3賞で構成する。また、「新しい観光」としてコロナ禍ならではの工夫・アイデアが盛り込まれた新たな取組や、スポーツ庁が推進する武道ツーリズム及び文化庁が推進する日本遺産や食文化に関し、特に優秀な取組があった場合は特別賞を設定する。

○スポーツ文化ツーリズム賞

○スポーツツーリズム賞

○文化ツーリズム賞

○特別賞（武道、日本遺産、食文化、新しい観光のいずれかの分野において優秀な取組の中から選定）

2. 応募要件

次の①～④のすべてを満たすイベント又は取組とする。

- ① 「スポーツ」と「文化資源」のいずれか又は両方と「観光」が結び付いた取組（スポーツ×文化×観光、スポーツ×観光、文化×観光）であること。
- ② 国内外の旅行者の増加、長期滞在を促す仕組みや地域への経済効果波及につながる工夫があること。
- ③ 地域の活力の着実な増加につながるものであること。
- ④ 過去5年以内に開催されていること（プレ大会や準備大会等は含まない。）。

【取組例】

スポーツや芸術・文化鑑賞を体験できる長期滞在型レジャー／世界文化・自然遺産の中でのウォーキング／伝統文化を取り入れた踊りの体験／デジタル技術等の活用により遠隔地や任意の時間帯から参加できるスポーツ大会／オンラインで行うワークショップによる地域スポーツや伝統文化を継承する取組／密を回避し、従来の観光にとらわれない新しい旅の形を実現した取組 等

3. 公募期間等

令和3年7月5日（月）から8月20日（金）まで

公募要領は、次のURLをご覧ください。

スポーツ庁URL：https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/boshu/detail/jsa_00080.html

文化庁URL：https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/93186001.html

<担当>

スポーツ庁 参事官（地域振興担当）

係長 横田 宜憲 （内線 3931）

専門職 片岡 章 （内線 "）

地域振興係 加藤 ゆい （内線 "）

stiiki@mext.go.jp

文化庁 参事官（文化観光担当）

参事官補佐 中村 夢隆 （内線 5051）

総括係長 高橋 鮎太 （内線 4869）

bunkankou@mext.go.jp

電話：03-5253-4111（代表）

別紙

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)

おわせ海・山ツデーウォーク実行委員会・尾鷲市

熊野古道伊勢路と尾鷲市の歴史文化を守り活用する 「おわせ海・山ツデーウォーク」



取組概要

聖地をつなぐ祈りの道「熊野古道伊勢路」は、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録をうけ、これを契機として、同年第1回大会を開催。次回で17回目。全国各地からウォーカーが集まり、海と山とにはぐかれた尾鷲市の、歴史の道を歩む。実行委員会による定期的なコース整備、保全活動により熊野古道のレガシーを後世に伝える役割も担う。スポーツイベントにとどまらない、歴史・文化・観光が融合したウォーキング大会。



評価ポイント

- 地域の自然を活かしている。
- ウォーキング協会との連携や、スポーツ振興への寄与、文化の活用、経済効果、将来性など、実績・総合力で最高評価。
- 地域との繋がり、結びつき等含めて非常にバランスの良いイベント。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)

富士山ネイチャーツアーズ

富士下山

～富士山の知られざる魅力に出会う自然旅行～



取組概要

「富士山の魅力は五合目より下にその七割がある」というツアーコンセプトを基に、富士山を下って楽しむオリジナルエコツアー。五合目まで車で登ることが出来る富士山ならではの地域性を持ち、代謝による体力消耗が少ないことから、体力の強弱、老若男女問わず、疲れることなく五合目より下に広がる豊かな自然や、旧登山道にひっそりと残された富士登山信仰の歴史文化の史跡をゆっくりと楽しみ、学ぶことが可能。

富士山に新たな観光様式を取り入れるとともに、自然、歴史文化の保全と健康増進に寄与する持続可能な新たなツーリズム。

評価ポイント

- ウォーキングだが地域らしさを活かしている。
- 山を下りながら自然遺産としての富士山を楽しむというところがユニーク。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【スポーツツーリズム賞】入賞



(申請団体)

有限会社エクストレモ

あるがままの自然を活用したアウトドアスポーツ “アドベンチャーレース”を全国で展開



取組概要

アドベンチャーレースは、3~4名が1チームとなり、様々なアウトドアアクティビティ（トレイルランニング、トレッキング、マウンテンバイク、カヤック、オリエンテーリング）を駆使しながら、チームで協力してゴールを目指していくレース。アウトドアスポーツの愛好者を始め、親子や初心者向けのレースまで幅広く開催しており、多くの人にその地域の自然や人との触れ合いを体感してもらうこと、アウトドアスポーツの裾野を広げることが目標に、地域交流や地域活性に貢献していくことを目的として展開している。

評価ポイント

- 参加者の幅が広く、地域との連携、自然の活用など総合点が高い。
- インバウンドが復興した際には、大きく着目されるジャンル。地域との連携や、単発で終わらない運営を評価。
- 独創性や、地域との繋がりがあり、今まで活用されていなかった中山間地域を含めた中小地域を活用できる将来性を評価。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【スポーツツーリズム賞】入賞

(申請団体)

FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 実行委員会



FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019の開催



取組概要

FIBA（国際バスケットボール連盟）主催の3人制バスケットボール「3x3」のクラブチーム世界一決定戦「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019」を開催。
宇都宮市のシンボルで、9mを超える宇都宮二荒山神社の大鳥居前・バンバ市民広場に特設コートを設置し、大会を開催。
宇都宮を代表するイベントである「宇都宮餃子祭り」、「宮の市」、「MIYA JAZZ IN」を同時開催し、宇都宮の魅力を発信。
オープニングセレモニーや試合の合間には、宇都宮伝統の宮壺會神輿や居合道のパフォーマンスを実施。

評価ポイント

- 独自性、オリジナリティ、地域らしさの観点を評価。
- 従来のコートにとらわれない海外からも注目される舞台設定や、地元のお祭りとの連携など、集客装置としての可能性を評価。
- 国際性があり地域と結びついた取組である。将来性を評価。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【文化ツーリズム賞】入賞

(申請団体)

一般社団法人北前船交流拡大機構

日本遺産北前船を通じた各地の文化資源活用と観光振興 ～ 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～



取組概要

全国各地で、寄港地の連携、文化資源の磨上げ、国内外の旅行者の増加と地域への経済効果波及、地域の活性化を目指す観光フォーラムとして、「北前船寄港地フォーラム」を平成19年より実施。本年度で29回目の開催。地元への経済効果に加え、観光資源の掘り起こしと再認識に寄与。

日本遺産構成48市町や日本財団等と協力して、ブランディング、情報発信、経済効果、地域活性化に係る取組を展開。

大手旅行会社協力のもと、日本遺産北前船を巡るツアーを設定・販売している。

評価ポイント

- 沢山の地域と連携し、一つ一つを大きなイベントに仕立てている点を評価。
- 長年の取組であり、北前船自体の歴史の連続性や北前船によってもたらされた食文化や生活文化がもっと認識されるべき。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)
松山市

重要文化財の保存修理工事を観光資源化 「道後温泉本館×火の鳥 道後REBORNプロジェクト」



取組概要

明治27年改築の道後温泉本館は、125年を超えた今も世界中の人々を魅了する松山市の宝。重要文化財の公衆浴場を営業しながらの保存修理工事は、日本初の取組。未曾有の大災害に備えた工事を乗り越えるため、手塚治虫の「火の鳥」とコラボレーション。文化財工事を「再生への過程」と捉えて物語化し、日本が世界に誇るアニメ文化で情報発信。工事・営業エリアを分けて、入浴でき、工事用仮設物を「ラッピングアート」として新たなまちのシンボルに仕立て、文化財工事を「再生の物語」として新たな観光資源に転換。

評価ポイント

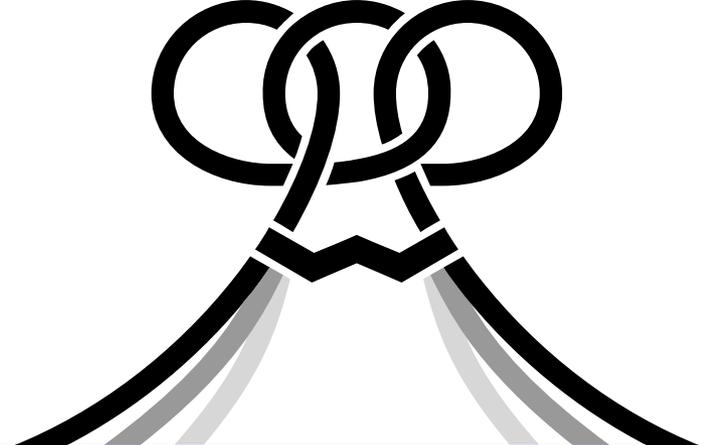
- アイデアが斬新。ピンチをチャンスに変えるという言葉が今のこのタイミングにふさわしいのでは。
- バックヤードツアーのモデルになるのでは。新しいアニメとの組み合わせが面白い。
- 修復自体を企画に変えるというコンセプトが良い。限定感が出る。



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

Ageshio Japan株式会社



世界でただ一つ！空手発祥地“沖縄”の空手ツーリズム事業



取組概要

世界に1.3億人の愛好家を有する世界最大の武道である「空手」発祥の地「沖縄」で、空手資源・観光資源を融合し、沖縄を訪れる空手家・旅行者を対象に、6ジャンル（空手観光、他武道体験、文化体験等）で合計25点の多様性ある空手ツーリズム商品を開発。空手発祥の地、沖縄に「空手ツーリズム」という、世界中でも唯一の、新たな観光市場を創出するとともに、沖縄県内の空手・観光業界発展への貢献も目指している。



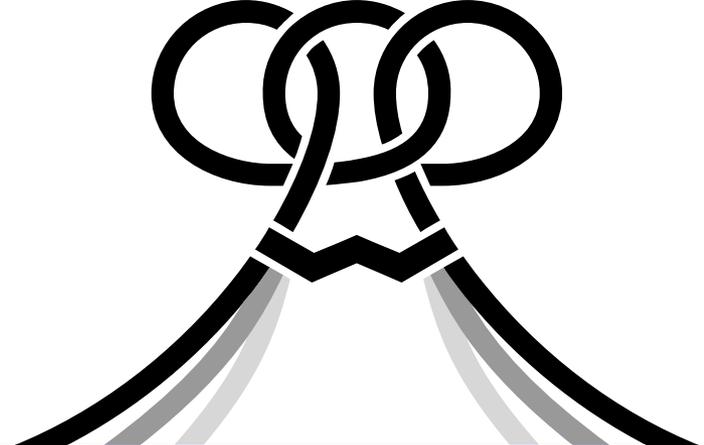
評価ポイント

- 沖縄の状況を踏まえて応援したい気持ちもある。
- 世界に広がりのある取り組みは評価できる。
- 武道ツーリズムの牽引者になりうる取組。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

むらやま武道ツーリズム推進協議会



居合道発祥の地でサムライ体験 山形県村山市



取組概要

山形県村山市には日本一社居合神社があり、居合の始祖が祀られている。居合道発祥の地という地域文化を活かした着地型体験プログラム「居合道発祥の地でサムライ体験」。

居合神社の境内に隣接する道場「居合振武館」にて、夢想神伝流居合の形「初発刀」を習い、抜刀術宗家の指導のもと真剣で畳筒を斬る試斬体験ができる。インバウンド訪日客はもちろん、日本人にとっても、忘れがたいエクスペリエンスとなっている。

居合道講師、運営ともに地元を中心に進めており、観光資源や農業体験、他市町との連携を目指している。

評価ポイント

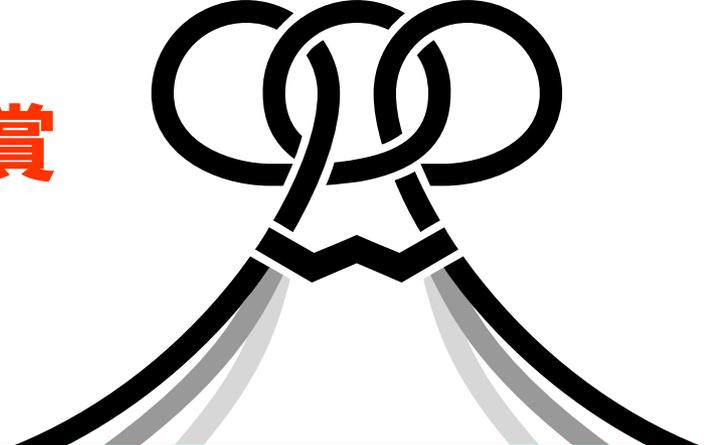
- 海外に経験者が少ない居合を体験でき、アピールになる。
- 一般の方に向けてツーリズムとしてしっかりできている。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【日本遺産ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

和歌山県和歌山市



日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」をめぐる！日本初のミュージックマラソン 「和歌山ジャズマラソン」



取組概要

2001年から実施し、2021年に第20回大会を迎える。マラソンの舞台は日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」。歴史文化を肌で感じながら風光明媚な景色の中を駆け抜けるコース設定。コース沿道に、ジャズのライブステージを設け、生演奏の軽快なリズムがランナーを後押しし、メイン会場では、特産品を味わえるブースを設置。食文化も味わうことができる。地元婦人会、自治会、学生等の協力を得、地域一体で盛り上げている。

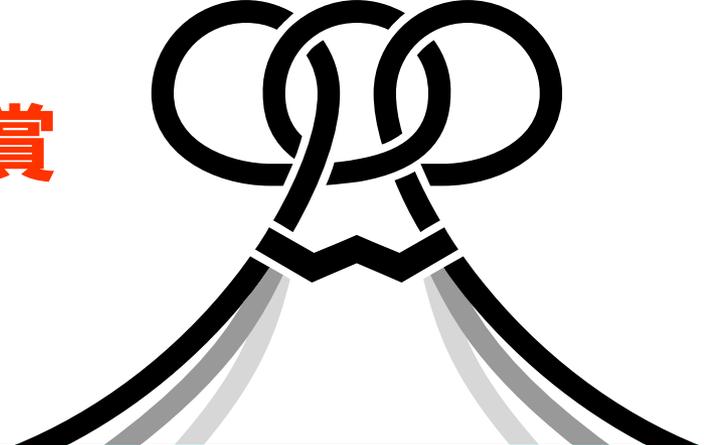


評価ポイント

- スポーツと文化の両方の要素がバランスよく入っており、地元とも調和している。総合点として高い。
- マラソンが多い中、異彩を放っており歴史もある。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【日本遺産ツーリズム賞】特別賞



(申請団体)

出羽三山シンフォニー実行委員会

出羽三山の精神文化と山形交響楽団のコラボレーションによるコンサート

『出羽三山シンフォニー』



取組概要

出羽三山が日本遺産に認定されたことをきっかけに、平成28年より実施し、過去4回開催。
出羽三山（三神合祭殿広場）を会場に、山形交響楽団によるフルオーケストラコンサートを実施。
屋外でのフルオーケストラコンサートという希少性もあり、本コンサートが組み込まれた旅行商品が造成されるなど、国内外から来場。
コンサート映像（概要版）をWEB配信することにより、日本遺産である出羽三山の魅力を広く国内外に発信している。



評価ポイント

- 荘厳な中で行われているきわめてユニークな取り組み。
- 唯一無二な場所での個性的なカップリングによる取り組みである。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

TOYOURA世界ホタテ釣り協会

『TOYOURA世界ホタテ釣り選手権大会』 ～The world scallop fishing Championships～



取組概要

北海道豊浦町は、噴火湾における「ホタテ養殖発祥の地」として50年以上の歴史がある。そのホタテを活用した世界大会として、公式ルールなどを決め、平成21年より毎年3月に個人戦（現在までに12回開催）の開催、秋には団体戦やジュニア大会（現在までに各7回開催）を実施。1試合の制限時間を3分間とし、専用の釣竿で水槽内の活ホタテが何枚釣れるかを競う。

大会開催だけに限らず全国各地へのイベント出張や、教育旅行・インバウンド・インセンティブツアー等の体験プログラムとして同競技を普及すべく、様々な活動を行っている。

評価ポイント

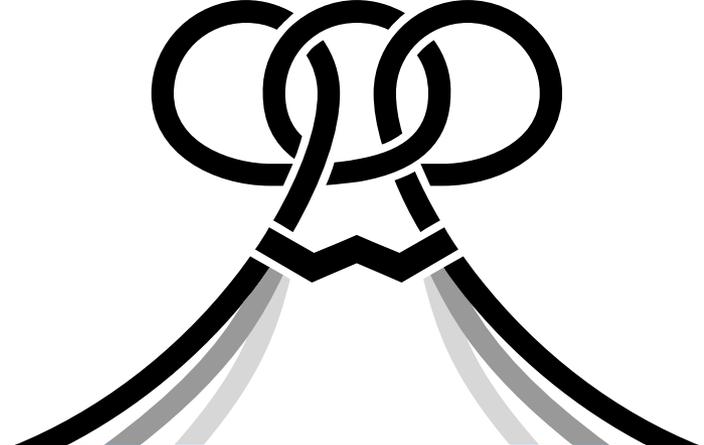
- 一目見て、自分もやりたいと思えるユニークな取り組み。
- この町にふさわしいイベントで個性的。運営努力もみえる。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

日本酒蔵ツーリズム推進協議会



「晴れの酒、花の宴。」日本酒蔵ツーリズム推進事業



取組概要

日本酒をはじめ日本産酒類の消費量が減少しているなか、文化財を人が集う場として活用し、最新ビジュアル技術を駆使し、訪日客など内外に発信することにより、日本の酒の復興（ルネッサンス）を目指す。

旧醸造試験所第一工場（通称：赤煉瓦酒造工場）では、重要文化財である赤レンガ倉庫の見学、醸造文化である酒造りの理解、食とのマリアージュ、伝統芸能である酒をテーマにした落語など、日本産酒類とそれに関連する文化をテーマにしたイベントを開催。貴重な文化財の認知拡大や酒食をはじめとする日本文化の周知、さらに「日本酒蔵ツーリズム」の認知拡大に継続的に取り組む。



評価ポイント

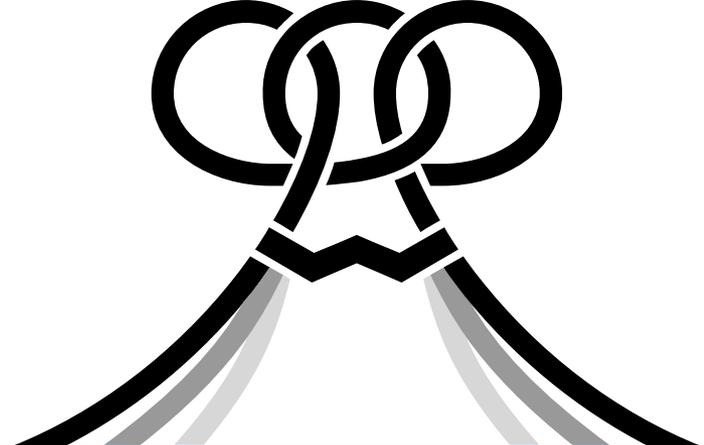
- 将来性があり、各地域ともうまく結びついていて良い。
- 昨今の海外における日本のお酒に対する評価も高いのでニーズがある。

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

一般社団法人しもきたTABIあしすと



ジオ・ガストロノミー・ツーリズム



取組概要

国定公園に指定され、日本ジオパークにも認定される下北半島の自然。

この自然・景観(ジオ)の独自性、また、ジオにより恵まれた食資源・食文化の独自性(豊かさ)を、シンボリックに伝えるため、特異なジオ環境下で、下北の食材をふんだんに使ったダイニングイベントを「下北ジオダイニング」と銘打って開催。

開催により、下北地域の独自性を明確化するとともに、広報により、その魅力を発信している。



評価ポイント

- 小規模な取組ながら、本質的なところをついており、見せ方もうまい。
- ツーリズムとしての建付けがしっかりあり、食の考えもしっかりしている。